

実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	21
学校名	富山県立雄峰高等学校

学校の現状と課題		本校の特徴として、中学校時代の不登校経験生徒に加え、他の高校で人間関係や学校の動きに対応できず、転入学してくる生徒が多い。そうした生徒の多くは自己肯定感が低く、人間関係をうまく作ることが苦手である。また、発達障害を含め、学習や学校生活に問題を抱える生徒も多い。
テーマ(特色)		自己肯定感を高めるための手立ての充実
設定した「テーマ」の達成状況		(1) 進路意識の向上 進路に関する知識や情報を与え、進路支援の機会を増やし、生徒の進路意識を高めるため、講演会を実施した。講演は2本立てとし、卒業生10名による講演を2回実施した。上級学校の学生や企業の若手社員など年齢の近い社会人から進路選択の体験や助言を通して、自己の将来について考えさせることができた。 (2) 生徒会活動を通して自己肯定感を養う取り組み 生徒会活動を通して学校・地域への帰属意識を高めるとともに、自己肯定感を養う取り組みを工夫した。生徒が自主的に参加する環境美化活動や地域交流活動、あいさつ運動等を継続実施した。また、地域の行事等に積極的に参加し、協働する楽しさを他の参加者との交流を通して体験させた。
実施内容 (具体的に記入する)		(1) 講演は、生徒の興味関心に応じて、就職希望者と進学希望者ごと10班に分け、講演と質疑応答を行った。講座ごとに生徒の案内係と進行係を設け、講師の誘導と講演の司会を行った。 就職希望者は、企業の若手社員から会社での働きぶりや仕事のやりがい等の助言を聞いた。 ・会社を選んだ動機 ・仕事で大変なこと、楽しいこと ・職業選択にあたって注意すべきこと ・学校でもっと勉強しておけば良かったと思うこと 進学希望者は、上級学校の学生から学校での研究内容や学校生活等の助言を聞いた。 ・志望校(進みたい進路)を選んだ動機 ・志望校(進みたい進路)が固まった時期 ・学校選択にあたって注意すべきこと ・学校でもっと勉強しておけば良かったと思うこと (2) 地域をはじめとした学校外での活動として、城址公園花壇整備、花街道プロジェクト、地域社会福祉協議会主催行事、呉羽丘陵整備事業に積極的、主体的に参加し、主催者や他の参加者との交流の充実を図った。また、校舎内の掲示板による、生徒会からの情報を随時発信することができた。
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)		(1) 進路意識の向上 ・進路希望に応じて班を選択することで、関連する業界や学びの領域を理解し、選択の幅を広げることにつながった。特に大学進学希望者の増加に対して、大学進学者の講師の割合を高めた。 ・生徒の係分担では、来客対応や進行手順を打ち合わせて確認し、ビジネスマナーの理解と向上につなげることができた。 ・上級学校の教員や社会人講師の講演以外に、年齢の近い講師の講演を聞くことで、共感的な理解を得ることができた。前半の生徒の97%が参考になったと答えており、後半の生徒は全員が参考になったと答えている。 (2) 生徒会活動を通して自己肯定感を養う取り組み ・校外での活動で、地域の方々をはじめとした多くの方々との交流を通して、お互いの立場を認め合い尊重する態度を身に付けることができた。 ・参加者としての立場から、「自分たちにできることとできないこと」を自ら考え、行動することを通して、社会参画への意識向上につながる活動ができた。 ・交流の様々な場面で、他者の多様な考えを聞いたり、自らの意見を効果的に伝えることを工夫したりすることで、コミュニケーション能力向上のための研鑽を積むことができた。
対象者(学年・人数など)		(1) 昼間単位制2年次 105名 (2) 昼間単位制生徒会執行委員会(1,2年次)、生徒有志(1～4年次)各回約20名
実施実績	4月	進路希望調査、生徒会執行委員による年間計画の作成、壁新聞制作・発行
	5月	生徒総会にて活動計画の提案、地域諸団体主催事業への参加、壁新聞制作・発行
	6月	地域活動への参加(花壇整備、水やり等)
	7月	
	8月	
	9月	
	10月	進路希望調査
	11月	進路講演会実施概要作成、地域活動への協力(花壇整備等)、壁新聞制作・発行
	12月	進路講演会講師依頼、地域諸団体主催事業への参加、壁新聞制作・発行
	1月	進路講演会実施要項作成、生徒班分け、案内係及び進行係選出
2月	進路講演会案内係及び進行係打合せ、講師打合せ、進路講演会実施	
3月	進路希望調査、今年度のふり返り	